

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	小児看護学概論		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間(単位)	15 時間(1)	
講師名	小児科病棟での看護実践経験				
科目目標	1. 小児期にある対象を理解する 2. 小児看護の役割・機能を理解する 3. 母子保健・小児保健のあり方について理解する 4. 子どもの権利を保障することの必要性について理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	小児看護の対象と役割	1. 小児看護の対象 2. 小児看護の目的と役割 3. 健康の保持・増進のための看護の場と活動		講義	
2	小児医療、小児看護の変遷	1. 諸外国の児童観・小児医療の変遷 1) 小児の保健統計 2. 日本の児童観・育児観の変遷 3. 日本の小児医療の変遷 4. 小児看護の変遷 5. 現代の小児看護 6. 小児看護の課題		講義	
3	母子保健と小児保健	1. 子どもと家族を取り巻く社会変化 2. 児童福祉 1) 児童福祉の変遷 2) 虐待防止 3) 子どもの貧困への対策		講義	
4		4. 母子保健の動向 5. 現在の母子保健 1) 母子健康手帳 2) 訪問指導 3) 健康診査 6. 小児慢性特定疾患治療研究事業		講義	
5		7. 予防接種 1) 予防接種の歴史 2) 現在の予防接種 8. 学校保健		講義 演習	
6		1. 医療現場で起きやすい問題点 2. 子どもの権利に関わる法規 3. 小児医療・小児看護における倫理的配慮(アドボカシー)		講義 GW	
7	4. 子どもをとりまく社会の状況について 自己学習発表会		発表		
8	単位認定試験				
評価方法	筆記試験、レポート				
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院				
自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。		

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	子どもの成長発達に応じた看護		対象学生・時期	2年生・前期
			講義時間(単位)	30 時間(1)
講師名	看護師			
科目目標	1. 子どもの成長発達について理解する 2. 子どもの成長発達段階に応じた健康増進の看護について理解する。			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	子どもの成長発達	1. 成長と発達 2. 成長発達の進み方(原則) 3. 成長発達の評価 4. 成長に関する因子(内的・外的)	講義	
2		5. 自我・認知・思考に関する理論 6. 発達課題 7. 母子関係理論 8. 学習理論	講義	
3	乳児期の成長発達	1. 乳児期 1) 形態的特徴 2) 身体的特徴	講義 GW	
4		3) 機能的特徴 4) 乳児期の看護	講義	
5	幼児期の成長発達	1. 幼児期 1) 形態的特徴 2) 身体的特徴	講義 GW	
6		3) 機能的特徴 4) 幼児期の看護	講義	
7	学童期の成長発達	1. 学童期 1) 形態的特徴 2) 身体的特徴 3) 機能的特徴 4) 学童期の看護	講義 GW	
8	思春期の成長発達	1. 思春期 1) 形態的特徴 2) 身体的特徴 3) 機能的特徴 4) 思春期の看護	講義 GW	
9	子どもの成長発達	1. 乳児期から思春期までのつながり	演習	
10	子どもの栄養	1. 子どもの栄養について学ぶ意義 1) 国の政策 2) 食育基本法 3) 子どもにとっての栄養の意義 2. 乳幼児期の栄養 1) 栄養の種類 2) 発達と母乳栄養 3) 栄養摂取のポイント 4) 人工乳の種類	講義	
11		3. 離乳食について 1) 食に関する体の統合 2) 離乳食開始の時期 3) 初期・中期・完了期 4) 離乳食を援助する時の基本姿勢 4. 子どもに多い健康問題と保健指導 1) 孤食 2) 外食	講義 演習	①

12	子どもと家族のアセスメント	1. 子どもと家族 1) 親子関係 2) 家族理論とアセスメント (1) 家族の機能と構造 (2) 家族システム理論 (3) 家族ストレス対処理論 (4) 家族発達理論	講義	
13	子どもに起こりやすい事故と予防	1. 各発達における起こりやすい事故と予防 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 安全教育 4) 思春期 自殺予防	講義 GW	
14		2. 具体的場面と対策	発表	
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 家族看護学 医学書院			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。演習課題を行う。	

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	健康障害のある子どもの看護	対象学生・時期	2年生・前期		
		講義時期（単位）	30 時間（1）		
講師名	看護師				
科目目標	1. 健康障害が子どもや家族に与える影響とその援助方法が理解でき、その援助方法について理解する 2. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、子ども及び家族への看護の方法を理解する 3. さまざまな状況にある健康障害を起こした子ども及び家族への援助について理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	健康障害をもつ子どもと家族の特徴	1. 病気や入院が子どもに与える影響と看護 1) 病気・障害に対する子どもの反応 2) 健康問題をもつ子どもと家族の看護の方向性 3) 子どもの治療・健康管理にかかわる看護 4) 子どもの日常生活にかかわる看護 5) 活動制限を受ける子どもの看護 2. 病気や入院が家族に及ぼす影響と看護 1) 子どもの病気・障害に対する家族の反応 2) 健康問題をもつ子どもの家族の看護 3. 外来における子どもと家族への看護		講義	①
2	経過・症状に応じた小児と家族の看護	1. 症状をしめす子どもの看護 1) 不機嫌 2) 啼泣（涕泣）3) 痛み 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) ショック 7) 意識障害 8) けいれん		講義	①
3		9) 発熱 10) 嘔吐 11) 下痢 12) 便秘 13) 脱水 14) 浮腫 15) 出血 16) 貧血 17) 発疹 18) 黄疸		講義	①
4	経過・症状に応じた小児と家族の看護	1. 慢性期の特徴 1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴 2) 疾患による子どもと家族の生活変化 3) 学習支援・復学支援 4) 発達に応じたセルフケアの獲得のための養育と支援 5) 慢性期における多職種チーム		講義	②
5		2. 慢性疾患をもつ子どもと家族の看護 1) 糖尿病 2) ネフローゼ 3) アレルギー疾患		講義	②
6		3. 先天性疾患のある子どもと家族 1) 先天異常の種類と特徴 2) 先天異常のある子どもと家族の看護 （1）心疾患 （2）消化器疾患 （3）骨・筋疾患 （4）代謝疾患 （5）遺伝性疾患 （6）常染色体異常症など 3) 子どもの発達段階に応じた援助 4) 子どもの疾患に対する家族の理解と受容 5) 養育とケア技術獲得に関する家族への援助 4. 在宅療養中の子どもと家族の看護		講義	②
7		1. 急性期の特徴 1) 急性期とは 2) 急性期の子どもと家族 2. 子どもと家族の看護 1) 生命維持・生体機能の安定 2) 安全の確保 3) 苦痛の緩和 4) 倫理的配慮 5) 家族への看護		講義	②

		3. 急性期疾患を持つ子どもの看護 1) てんかん		
8		4. 救命処置が必要な子どもと家族の看護 1) 救急におけるトリアージ 2) 子どもの事故・外傷と看護 (誤飲、誤嚥、溺水、熱傷、熱中症) 3) 子どもの1次救命処置 (1) アナフィラキシー	講義	①
9		1. 終末期の特徴 2. 子どもの生命・死のとりえ方 3. 終末期のある子どもの看護 1) 血友病 2) 白血病 3) 悪性新生物 (放射線治療・化学療法を含む) 4. 子どもが終末期にある家族の看護 5. 子どもを亡くした家族の看護	講義	②
10	特別な状況にある子どもと家族の看護	1. 感染対策上隔離を要する子どもと家族の看護 1) 隔離の目的・方法 2) 隔離をすることでの子どもへの影響 3) 感染症の子どもへの援助と配慮 4) 感染症を持つ子どもの家族への援助	講義	②
11		2. 健康障害をもつ新生児と家族の看護 1) ハイリスク新生児の特徴 2) 集中治療における援助 3) 親子・家族関係確立への支援	講義	②
12		3. 手術を受ける子どもと家族の看護 1) 周手術期の特徴 2) 術前の看護 3) 術後急性期の看護 4) 術後回復期の看護	講義	②
13		4. 重症心身障がい児と家族の看護 1) 障がいのとりえ方 2) 障がいのある子どもと家族の看護 5. 神経系疾患のある子どもの看護 1) 脳性麻痺 2) 水頭症 3) 髄膜炎 4) 脳腫瘍 5) 筋ジストロフィー	講義	③
14	虐待や被災した子どもの看護	1. 虐待を受けている子どもと家族の看護 1) 子どもの虐待の特徴 2) リスク要因と早期発見 3) 虐待の未然防止に向けての支援 4) 他機関・多職種との連携・協働 2. 災害を受けた子どもと家族の看護 1) 災害による子どもへの影響 2) 災害を受けた子どもと家族の特徴と援助 3) 災害時における緊急度の把握・トリアージ 4) 災害時の子どもと家族の看護	講義	①
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 小児看護臨床看護各論 医学書院			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。	

*この科目は実務経験のある教員による授業科目です

科目名	小児看護学演習	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間（単位）	30 時間（1）	
講師名	専任教員			
科目目標	1. 子どもの成長発達についてアセスメントできる 2. 病気や入院が子どもや家族に与える影響とその看護を理解する 3. 子どもに対する基本的看護技術が習得できる			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	子どもの遊び	1. 遊びの援助 1) 発達と遊び 2) 遊びの種類 3) 安静度に応じた遊び 2. 発達段階に応じた コミュニケーション 3. 言語的・非言語的を含めた コミュニケーションの方法	講義	
2		1. 遊びの実際	演習	
3	検査の介助と プレパレーション	1. プレパレーション 2. ディストラクション 3. インフォームドアセント	講義 演習 GW	
4		4. 検査の介助 採血、採尿、骨髄穿刺、吸引（安全、治療に伴う抑制、点滴の固定方法） 5. 処置 経管栄養、酸素投与		
5	小児の薬物治療時の 看護	1. 小児の薬物療法 1) 経口薬 2) 点眼、点耳、点鼻薬 3) 座薬 4) 吸入 5) 点滴管理	講義	
6	発育・発達の評価	1. 健康障害をもつ小児の身体発育・機能的発達・心理社会的発達のアセスメント 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目的 3) 小児看護の特徴 4) 小児のアセスメントの考え方	講義 GW	
7		2. 健康障害をもつ小児の身体発育・機能的発達・心理社会的発達のアセスメントの実際	GW	
8	小児の健康障害に応じたアセスメント	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 1) 病気や入院が子どもに与える影響のアセスメント	講義 GW	
9		2. 病気や入院が子どもに与える影響のアセスメントの実際	GW	
10	小児の身体測定、フィジカルアセスメント	1. 測定の方法と発達状況の評価 2. 身体測定	講義 演習	
11	発達段階・健康障害に応じた看護計画の立案	1. 入院した子供の看護 1) 子どもに合った入院環境 2) 入院適応に向けての看護	講義	
12	バイタルサイン測定	1. 事例に合わせた測定方法の計画	GW/演習	
13		2. バイタルサイン測定の実際	発表	
14	発達に応じた説明と	1. プレパレーションと実際	演習	

	同意	1) 観察項目 2) 成長発達に合わせているという根拠の明示 3) 具体的な声掛け、工夫		
15	単位認定試験			
評価方法	筆記試験 ・ 看護過程の提出状況と内容			
使用テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護概論 小児臨床看護学総論 医学書院			
自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習・事後学習を行う。演習課題を行う。	